

バリアフリー優秀大賞一覧（2006 年度）

バリアフリー推進ネットワーク

バリアフリー推進ネットワーク（正式名：交通バリアフリー推進支援連絡協議会－事務局：交通エコロジー・モビリティ財団－）では、去る 9 月 28 日に幹事会を開催し、以下の通り本年度のバリアフリー優秀大賞を選定しました。

	受賞者(団体、組織等)	主な受賞理由
1	ポートルム（富山ライトレール株式会社）	<p>【先進性・新規性の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃線となった既存設備を活用しながら低床型の国内産路面電車に転換されたのは日本で初めての事例であり、ホームも低床のため歩道との段差をほぼ感じることなく移動できる。IC カード導入により地域一体でのサービス提供に努めている。また、フィーダーバスの試行運行を行うことにより、より地域に密着した交通機関を目指している。 <p>【継続性・連携性の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートルム導入以後、コンパクトな街づくりの見本として日本全国で運行が検討されている。また、富山港路面電車化支援実行委員会を通して、市民参加による積極的な支援を続けている。
2	心のバリアフリー啓発冊子作成（バリアフリーまつど市民会議）	<p>【先進性・新規性の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民団体（障害当事者とサポート）と行政でソフトに関する冊子づくりの取り組みが広がる中で、本冊子は挿絵などを多用しわかりやすい内容とし、見るだけではなく自ら探検する体験を促す内容を掲載している。また、視覚障害者の副読本となるよう SP コードを掲載している。 <p>【継続性・連携性の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冊子を毎年増版し、対象となる小学 4 年生への全員配布を行うことにより、次世代までつながる子供達を中心に、市民に対し、心のバリアフリー啓発活動を続けている。
3	誰もが使える交通機関を求める全国行動東京実行委員会の取り組み（誰もが使える交通機関を求める全国行動東京実行委員会）	<p>【先進性・新規性の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害当事者の団体として、車いす使用者、視覚障害者、聴覚障害者、高齢者、妊産婦等の移動制約者が利用できる交通機関の整備の推進活動を行っている。 <p>【継続性・連携性の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1989 年に結成されて以来現在まで活動を継続し、これまでの活動の結果、交通事業者との連携を深め、公共交通機関のバリアフリー化実現に向けて協働を続けている。

上記 3 件の受賞者については、11 月 17 日（金）に開催される「第 5 回交通バリアフリー推進の集い」にて表彰予定です。